



政策研究会

林田 勉
議員

▼市発注の公共工事実績 状況と今後について

Q 近年の発注工事高の推移と、市内、市外業者の落札状況はどうなっているのか。

A 十九年度が十二億千二百万円、二十年度が十一億八千九百万円、二十一年度が十五億八千百万円であり、そのうち市内業者への発注金額は、十九年度が十一億五千九百万円、二十年度が十一億四百万円、二十一年度が十三億八千三百万円である。

Q 工事業者の指名選考の基準と、不況下での資材業者を含めた市内業者の保護・育成はどう考えているか。

A 施工実績や施工能力、経営状況等のほか、地元業者の育成及び地域経済活性化のため、特殊な工事を除き市内業者を優先的に選定している。また、建設資材の使用も材料選定の際にお願いしている。育成については、最低制限価格の引き上げにより、工事請負額の確保を図るとともに、工事検査体制の充実により、建設工事における施工業者の技術向上に努めている。

Q 大型物件も地元業者に発注できないか。

A 大規模で難易度の高い工事は、共同企業体での発注を行っている。なお、共同企業体での発注を行う場合には、結成する組合わせを、市内業者と市外業者の組合わせ、または市内業者での組み合わせを要件とするなど、大規模工事でもできるだけ市内業者が参加できるようにしている。

▼小・中学校の体験学習 について

Q 学校間で体験授業の交流はできないか。

A 各学校で地域の特性や実態に応じた体験学習を実施しているが、体験学習による学校間の交流は実施していない。

Q 三会中学校の命の体験学習をほかの中学校に広げることではないのか。

A 鶏を育てて最後は食べるという教育だが、成果が上がっているので検討したい。

Q 地域の文化を子供たちに体験させることはできないのか。

A 三世代交流事業などの体験学習を社会教育行政で取り組んでいる。

【その他の質問項目】

◇九州に多いとされる成人T細胞白血病(ATL)について



新緑クラブ

山本 由夫
議員

▼緊急雇用創出事業、ふるさと雇用再生特別基金事業について

Q 「思い出のふるさと里帰り再会事業」のコース設定や事業者募集はどうするのか。

A この事業は、島原出身で里帰りの機会のない方に対し、友人、知人との再会の場として宿泊施設、食事処などの連携により魅力あるコースを設定し、その情報提供を行うものだが、コースは本人の意向を聞いて対応することになり、事業者はホテル、飲食店、交通機関等においてお願いすることになると考えている。

Q 「彩発見しまばらみどかつ隊事業」と

「船と島原よかとこ周遊創造事業」は着地型観光への取り組みだと思うが、今回の事業をテストケースにして、改善点を明らかにして次につなげることが必要だと思うかどうか。

A 観光行政に携わる上で、プラスのところとマイナスのところを十分把握しながら行う必要があると思っている。

▼ジオパークについて

Q ①保護・保全、②教育・学習、③観光振興、④産業振興の今後の取り組みと組織体制はどう考えているのか。

A ①島原半島ジオパーク推進連絡協議会や環境省、国土交通省、長崎県などと連携しながら地質遺産の保全、保護に取り組んでいく。②今年度は、小学校六年生が島原半島ジオパーク「自分のまちを体感しよう」というテーマで学習する計画をしており、中学校一年生では「島原半島ジオさくら」というテーマで学習する計画を進めている。

また、雲仙普賢岳災害記念館の寺井先生を講師に招き、校区内の地質資源を掘り起こして作成した教材を使用し、地質資源の成り立ちや性質を理解するとともに、防災について学ぶ授業を小・中学校で実施する予定である。また、各地区の女性学級や高齢者学級でジオパーク関連の講座を実施する予定である。③島原半島ジオパーク推進連絡協議会事務局と半島外へのPRや観光客誘致を行う島原半島観光連盟と連携しながら、効率的なジオパークの推進体制の確立に取り組んでいく。④地元の特産品、食材あるいは湧水を用いた従来の商品に加え、新鮮な食材を活用した名物料理の開発にも取り組む必要があると思う。

【その他の質問項目】

◇地区社協について

◇公共施設等の駐車場、トイレについて